

# 大自然と共に生きる道祖神

外国語学部 国際文化交流学科2年 藤本雄大

まだ眠気残る自分自身と格闘しながら新宿へ向かい、そこから松本を經由して三時間。

周りをアルプスの山々に囲まれ、大自然の天然が残る地域にやってきた。空気が澄んだこの地域には夏から秋へと流れゆく摂理を確かに感じる事が出来た。遠くの山々から流れ落ちる斜面にはうっすらと色づく四季彩、そこから遠く連なる河川は透き通り、藻の間でかくれんぼをする小魚が容易に見えてくるほどである。

その土地には我々日本人にとってもっとも身近な神々が今でも信じられている。長野県安曇野市に多く点在する道祖神像である。縁結び、五穀豊稔、子孫繁栄など人々が願いを込めた道祖神像は今も昔も存在している。

安曇野市観光ホームページによると、道祖神とは、塞<sup>さいえん</sup>の神とよばれており、本来は悪霊や疫病など邪悪な災いが集落に入り込まないように村の境に置いたものとされている。昔

は日本全国に多く存在したという道祖神像であるが、現代においてはあまりなじみのないものになっている。ましてや都会に住んでいる我々には全くと言っていいほど目にする機会はなく、今では役割をなくした存在なのかもしれない。

しかし、今現在においても、その役割を変え、多種多様な道祖神像が多く存在し、地域の神様としても、観光誘致としても、確固たる市民権を有している道祖神がいる。その地域のひとつが長野県安曇野市である。

我々が訪れた穂高という地域では道祖神めぐりの聖地として知られており、地域に根ざす多種多様な神々は、この地域で暮らす人々にとつての自然観と共に彼らのアイデンティティーの一つとして遠く昔から受け継がれてきた証拠なのであろう。

## 謎だらけの道祖神

道祖神というのは結局のところ何なのでしようか、という問いに対して、安曇野市豊科歴史郷土博物館の職員の方は正直のところわかりませんと答えていた。これは道祖神を研究する専門家の方もこのように答えているようであり、そのような意見が一般的なようである。

人々を災いから守るために作られた道祖神像は各時代や地域ごとに人々の願いに耳を傾けていたのであり、その役割というのは時代やその人々によつて多種多様である。そして、なぜ長野県、特に安曇野では道祖神信仰が今でも盛んにおこなわれているのかというと、そこには周りを大自然の天然に囲まれた土地、風土がそこで暮らす人々と共存している。それを繋ぐものとしての道祖神が今も昔も生き続けているのかもしれない。



## ～道祖神 in 安曇野～



安曇野の大自然アルプスの山々と透き通った河川



色彩のある道祖神像 握手 (1883) ほか

## 長野県

皆さん、長野県に訪れたことはありますか？ ちなみに私は、行ったことはありませんでした。なので、今回が初となります。

長野県といえば、どのようなことを思い浮かべますか？ 正直に言いますと、私は思いつきませんでした。スキーをしに行く場所しか思い浮かばなかったです。無知の状態で長野県に行きました。しかし、訪れた後長野県のすばらしさをたくさん知ることが出来ました。私が感じたことをこの記事に書きたいと思います。

## 安曇野

私たちは、長野県の安曇野に行きました。東京新宿駅9時発の新幹線を乗り、長野県松本駅12時30分に到着しました。安

曇野は長野県松本駅から電車を使い、約30分で到着します。そのまま、安曇野に向かい安曇野に到着しました。私がまず安曇野駅に到着

し思ったことは、とにかく空気が新鮮で、澄み通っていました。東京では決して感じられない新鮮な空気でした。私は人生でこれほど新鮮な空気を感じたことはありませんでした。サイクリングで安曇野を観光しましたが、安曇野の冷たい新鮮な空気が体を包むように吹き、体その冷たい空気により、丁度いい体温を保つことができました。

サイクリング中、たくさん小さな川を見ました。長野県の水はとても綺麗です。川の底がはっきりと見えるくらい水が透き通り、川



→安曇野の空。大空が広がり、気持ちよかったです！

外国語学部 中国語学科3年 齋藤 佑也

↑写真でも水が澄み通っています。川底が見えて綺麗です。



に住んでいる魚たちの泳ぎなどがはっきりと見えました。

観光地である「大王わさび農場」で水に触れることができます。ここ「大王わさび農場」の水は、今まで私が知っている水とは違いました。綺麗で澄み通っている水ですが、水の質が違います。とてもサラサラで柔らかな水でし

